

平成 19 年 3 月 29 日 柏木茂

日本物理学会 2007 年春季大会（首都大学東京南大沢キャンパス）

ビーム物理領域インフォーマルミーティング議事録

日時：2007 年 3 月 26 日（月） 13 時 30 分～

場所：首都大学東京南大沢キャンパス（SB 会場）

出席者（敬称略）：

田島（領域代表）、鎌田（領域副代表）、野田、上坂、浦川、熊谷、中村（剛）、栗木、
阪井、平田、小瀧、柏木

（内容）

1. 前回議事録確認
2. 2007 年秋の物理学会第 62 回年次会（北海道大学）について
3. 物理学会の領域代表および世話人
4. 若手奨励賞
5. その他の賞について
6. 2007 年秋の物理学会年会（北海道大学）における合同セッション
7. 2008 年春の物理学会年会（近畿大学）における合同セッション
8. 次回のビーム物理研究会
9. その他
 - 世話人会メンバー、若手奨励賞の選考委員
 - 次回学会での招待講演についてなど

(はじめに)

小瀧氏より、本日 (3/26) のビーム物理領域シンポジウム「物理教育におけるビーム物理」の参加者は約 50 名であったという報告があった。

1. 前回の議事録の確認

- 別添 1 の前回議事録の確認を行った。
- 項目 4 の若手奨励賞選考スケジュールについて確認がされた。
2006 年度選考について、平成 19 年 2 月 24 日の選考委員会で若手奨励賞の選出が行われた。4 月の物理学会理事会で承認、9 月に受賞者による講演を行う。
- 項目 6 の次回ビーム物理研究会開催時期について確認がされた。物理学会の年会在 2007 年秋 (9 月・北海道大学) と 2008 年春 (3 月・近畿大学) に行われるので、2007 年秋のビーム物理研究会は行わない。また 2007 年春もビーム物理研究会は行わない。

2. 2007 年秋の物理学会第 62 回年次会 (北海道大学) について

- 学会期間の確認を行った。2007 年 9 月 21 日 (金) から 24 日 (月・祝)
- シンポジウムの開催について話し合った。

小瀧氏より、領域 2 より合同シンポジウムの提案があることが説明された。この領域 2 との合同シンポジウムは行う方向で領域 2 代表者・世話人の方々と内容をつめていく。ビーム物理領域からは、田島領域代表の招待講演 (仁科賞受賞内容) と科研費特別推進 (「相対論工学・・・」) に関する講演を数件提案する。

シンポジウムの学会への申込み期間は 4/9～5/16

- 招待講演、企画講演について話し合った。
2006 年度の若手奨励賞・受賞者には、62 回年次会で講演 (企画講演) をしてもらう。(受賞者への講演の連絡は、領域代表 (田島) より行う。) その他、招待講演の候補 (者) が挙げられた。2 週間以内に世話人でメールにより回覧を回し、意見交換を行う。招待講演・企画講演の学会への申込み期間は 4/9～5/16

(候補として挙げられた先生方およびテーマ)

広瀬先生 (早大)、太田先生 (立命館大シンクロ)、日大 FEL、理研 RI、理研 XFEL、白土先生 (北大)

- 北海道大学での物理学会会期中に北大・白土先生にご協力いただき、ビーム物理研究会「(仮題) 医学物理とビーム」を開催する。アレンジ・上坂
- ビーム物理領域セッションの一般講演の申込み (期間：5/9～5/25 郵送、～6/3Web) の時期に関連分野へ広く連絡・回覧を行う。担当：柏木

3. 物理学会の領域代表および世話人について

- 領域代表および副代表、世話人の任期の確認を行った。

- 小瀧氏より1年後のインフォーマルミーティング（近畿大学）で次期副代表の選出が必要であるという説明があった。また、前回11月の世話人会で了承された柏木の後任である神門正城氏（日本原子力研究開発機構）の学会への連絡を4月14日まで行う。
- また、5月からの世話人である阪井氏（2007年5月～2008年4月）の後任を2007年秋（北大）のインフォーマルミーティングで選出する必要あり。これについては、秋のインフォーマルミーティングまでに鎌田副代表が候補者を選出することにした。

4. 若手奨励賞

- 田島領域代表よりビーム物理領域の選考委員会での選考は済んでいるという説明がされた。物理学会の理事会(4月)で承認されよう学会長宛に書類を郵送、また本人通知、秋の物理学会での企画講演の依頼は田島領域代表よりする事とした。(本人通知は5月中の予定)
- 受賞者の企画講演の学会への連絡は世話人からする。

5. その他の賞について

- ビーム物理領域が関係する分野の賞について意見交換がされた。
- 江崎玲於奈賞などにビーム物理領域（ビーム物理研究会）から積極的に推薦をしていってらどうかという意見がでた。

6. 2007年秋の物理学会年会（北海道大学）における合同セッション

- 小瀧氏より、第62回年次大会（北大）で領域1・領域2との合同セッション申込みを学会にしたという報告がされた。北大での合同セッションについては、学会への申込み締め切りが2007年2月27日であったため、2月中にビーム物理研究会の世話人の間でメールにより意見交換をした。
 - ◇ 領域1（キーワード：放射光、FEL、逆コンプトンなど加速器ベースの光源）
 - ◇ 領域2（キーワード：高エネルギー密度プラズマ物理（プラズマ粒子加速物理））
- 「放射光とあるが、放射光の関係者が物理学会に参加してくることは無いのでは？」というコメントがあった。「放射光関係者（利用者）に対して、加速器などのビーム物理関係者から積極的に交流をもつのも大切だろう」という意見もあった。

7. 2008年春の物理学会年会（近畿大学）における合同セッション

- 合同セッションの内容を秋の学会より前の8月末までに決定し、学会に連絡する必要がある。
- 領域1と領域2とは引き続き合同セッションを行う事とした。
- 2007年秋の年会の合同セッションに間に合わなかった、素粒子実験領域や実験核物理との合同セッションも相手側の領域代表・世話人と連絡をとり開催する方向で進める事とした。(担当：阪井、柏木)

8. ビーム物理学研究会

- 次回のビーム物理研究会の開催時期と場所について話し合った。
- 物理学会の年会在 2007 年秋、2008 年春とあるので、次回は 2008 年秋頃に SPring-8 で行う事とした。中村（剛）氏より SPring-8 の大熊氏に確認をしてもらう。

9. その他

- （拡大）世話人会メンバーについて。
 - ◇ 今回のインフォーマルミーティング前に小方氏よりメールで世話人を外れたいという連絡があった。今後、世話人会メンバーをどうしていくかについて下記のような意見交換がされた。
 - 「現在ビーム物理学研究会のホームページの管理などを小方氏にしてもらっているの
で、世話人から外れられては困るのでは？」
 - ホームページ管理（物理学会領域・鎌田、ビーム物理学研究会・小方）を含め、徐々に
（若い）メンバーに移行していかないといけない。
 - 「拡大世話人会については来たい人が参加するというスタンスで良いのではないか」
 - 「世話人会メンバーはメールを回して意見交換するメンバーという位置づけ」
 - ホームページにのせる組織図をはっきりさせる。
- 若手奨励賞の選考委員会について
 - ◇ 田島領域代表と鎌田領域副代表で 7 月までに決める。
- その他
 - ◇ 物理学会ビーム物理領域（ビーム物理学研究会）の活性化について意見交換がされた。
 - 活性化のために、ビーム物理+宇宙線などでアジア（韓国、中国、インドなど）との
合同開催を検討してはどうか？
 - プラズマ関係で高部氏（阪大）はインド・中国と研究会を開催している。
 - 海外と合同で行う場合、旅費や参加費などの問題もある。
 - 2010 年以外で開催できないか？ 2010 年は APAC（5 月・京都）と LINAC（秋・
KEK）があるのでスケジュール的に厳しい。
 - 日米+アジアといった枠組みで、高エネルギーの人たちとコンタクトをとる。（浦川）
 - その他、上坂氏よりビーム物理関連の論文を増やすために、ビーム物理学研究会のプロ
シーディングなどを Phys. Rev. ST-AB や JJAP に publish するようにしたらどう
か？学生の業績を増やすのにもよいのでは？という意見があった。これについては今
後検討していく。